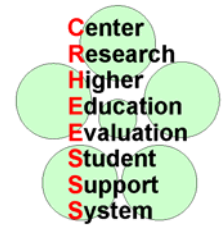


週刊センターニュース No.13



第13号(2004年6月7日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会の記録ビデオテープについて

以前からご案内しておりますように、共同学習会にご出席いただけなかった方々のために、報告者の了解を得て記録しておりますテープのダビングを行います。ご希望の方は例えば、第19回「企業にとっての共同研究 - 外部資金獲得の方法 - 」と明記して、テープとともに学内便でお送りください。

共同学習会のご案内

第22回 日時: 6月10日(木) 5時限目(16:10~17:40)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

講師: 瀬領 浩一 (共同研究センター)

題目: 「共同研究提案書作成」

概要: 企業に対する大学の対応をテクノロジーマーケティングという視点から整理します。ポイントは企業の抱えている問題をいかに知り、解決の提案を行っていくかです。これまで企業には、大学で行われていること、大学のできことが今ひとつ見えませんでした。また大学側も、企業から期待される仕事でも、自分の研究テーマに合わない場合、複数の技術の総合であり個人の立場では対応できない場合、あまりにも特定の企業の利益に貢献するような場合は、お断りしてきました。このため大学は「融通がきかない」、「お高くとまっている」と言われて来ました。これからは各大学が企業の課題にあわせて工夫し、大学同士が競争していく時代です。この工夫を整理しお客さんにお渡しするのが提案書です。今回は、プレゼンテーション型の提案書を取り上げ、企業から魅力的なものと評価されるものにする方法について皆様と考えて見たいと思います。

第23回 日時: 6月17日(木) 5時限目(16:10~17:40)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

講師: 青野透(大学教育開発・支援センター)

題目: 「大学教育学会に出席・報告して」

当センター共同学習会と本学イーラーニング研究会との第1回合同研究会を以下の通り開催いたします。開催場所は、総合メディア基盤センターとなります。

日時: 6月24日(木) 5時限目(16:10~17:40)

場所: 総合メディア基盤センター2階 プレゼンテーション室

講師: 木村和子教授 薬学部(医療薬学講座国際保健薬学)

題目: 「社会人のe-ラーニングと大学」

国立大学入学者選抜研究連絡協議会第25回大会レポート

6月2日、3日の両日、国立大学入学者選抜研究連絡協議会第25回大会に参加した。全体セミナーや公開討論会では、昨年に引き続きアドミッションズ・オフィス(AO)入試が取り上げられ、その現状を把握することができた。平成12年度より東北大、筑波大、九州大で初めて導入されたAO入試は、国立大学18%、私立大学65%まで普及したが、その入試方法は多岐にわたり、試行錯誤が

続いている。今春、AO入試一期生の卒業を迎えた九州大学では、出口調査として一期生の評価分析が行われ、AO入試の効果に対する定量的分析もまたようやく始まりつつある状況である。まだ未成熟なAO入試を象徴するかのようにアドミッション・ポリシーの定義自体も議論の対象になっていた。

東北大学のAO入試に関わる環境整備がかなり進んでいる印象を受けた。全国45ヶ所で入試を実施し、合格決定から入学までの間「入学前教育」が実施されている。AO入試で合格した工学部学生が招かれ、話を聞くことができた。入学前教育として、工学英語入門、数学物理学演習、自由選択の入学前通信教育が行われる。入学後の授業での理解に役立ち、専門への動機付けにもなったとのことであった。入学後も、TAによる補習授業や研究室への仮配属などAOによる入学生に対する手厚いサポートが用意されている。追跡調査やAO入試の効果の評価法の検討など現在進行中とのことであった。

広島大学では平成18年度入試に向けて「入学センター」を中心に入試改革が検討されている。各学部の合格者の大学入試センター試験の得点はよく揃っており、受験校の割り振りが十分コントロールされている段階に来たことが指摘された。入学後の適性のミスマッチは懸念される大きな問題である。大学入試センター試験の資格試験としての利用や後期日程の廃止など一般選抜の改革を念頭に、広島大学の独自性を担うAO入試が重要視され、受験生の適性や潜在的能力を見極めうる入試方法が現在検討されているとのことであった。平成18年度入試からは、一般選抜80%、AO選抜20%の2種類に集約されるという。

尾道北高校の進路指導部長が招かれ、AO入試や高大連携について18の高校から得たアンケート結果を分析し、意見を述べられた。進学校はAO入試に消極的な傾向にあり、その理由として、アドミッション・ポリシーがまだまだ明確ではなく、入試方法も変動が激しく受験対策が難しい点を挙げられた。一方、実業高校や進学実績のない高校は、AO入試に活路を見出そうとしているとのことであった。高校での「総合的な学習の時間」を「知の総合化を図る」カリキュラムと位置づけるとともに大学との連携の機会となりうることを、結果としてAO入試に有効な学習活動になりうることを主張された。

本年度より実施される機関別認証評価、特にその評価基準の一つである「学生の受入」にも議論が及んだ。アドミッション・ポリシーの明確化、選抜方法の効果を示す根拠の提示が求められることについて、再び懸念される評価疲れなど、大学評価・学位授与機構に対する不信感を露にした意見が出た。この点については、名城大学の池田輝政先生の提言が解決の糸口を示しているように思えた。アドミッション・ポリシーとして、入学要件、選抜基準、求める人材ばかりでなく、どのような人材を育成するか、そのためにどのような教育プログラムを用意しているかなど、大学独自のミッションを明確に示すべきであることを述べられた。さらに、それらのミッションを戦略指標として数値化すべきであると提言された。例えば、卒業率、在職率、起業率などの数値目標を明示すべきとの意見である。このような数値明示により、入試方法の効果は曖昧さなく評価されることになり、根拠の提示は不要となる。何を数値化するか、いかに目標を達成させるかは、大学独自の工夫次第ということになるであろう。(文責 西山)

角間ランチョンセミナー開催記録(5月31日～6月4日分)

2004.5.31 「研究発表 五ヶ国語の色彩表現」ペトラ、ティム、バジム、朴、陸(留学生)

2004.6.1 「文系大学院進学を考えている人のために」清水 邦彦(文学部)

2004.6.2 「教員になりたい人のために - 履修の仕方を中心に -」太田 守人(学生部共通教育課)

2004.6.3 「就職活動中の諸問題 - あなたならどうする -」坂村 喜将(学生部学生支援課)

2004.6.4 「細胞の死から生を科学する」須田 貴司(がん研究所)

センター教員活動記録(5月31日～6月6日分)

2004.6.2,3 国立大学入学者選抜研究連絡協議会第25回大会へ参加、

(国立大学入学者選抜研究連絡協議会主催)会場：松山全日空ホテル(西山 公費出張)

2004.6.3 信州大学高等教育システムセンターへピアレビュー、導入教育ハンドブックなどについて訪問調査(堀井 公費出張)

2003.6.4 日本アイランド学会へ参加 会場：信州大学人文学部(堀井 公費出張)